

会 議 録

会議の名称	那珂川市都市計画審議会 第4回立地適正化計画検討部会		
開催日時	令和元年7月9日(火) 10:00 ~ 12:00	開催場所	第2別館2階大会議室
出席者	<p>1. 委員 宮本委員、大橋委員、河野委員、内野委員、阿河委員、森重委員、柴田委員、田上委員、坂井委員、八代委員、大谷委員、龍代理(野上委員の代理)</p> <p>欠席: 田中委員、野上委員</p> <p>2. 執行機関(事務局) 桐谷都市計画課長、鶴田土地活用・計画担当係長、笹淵(文責)</p> <p>3. その他 福岡県都市計画課横山氏 (株)玉野総合コンサルタント 2名</p>		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 昨年度検討部会の振り返り ・資料2 立地適正化計画にかかる他自治体の状況・参考事例 ・資料3 誘導区域等の設定等 		
公開区分	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 ・ <input type="checkbox"/> 一部開示 ・ <input type="checkbox"/> 非開示 (理由: 情報公開条例第9条第 号に該当)		
<p>議題及び審議の内容</p> <p>1. 開会 事務局: <開会のあいさつ></p> <p>2. 委員の交代について 事務局: <中村委員の人事異動に伴い、大橋委員に交代となったことを報告> 委員: <あいさつ></p> <p>2. 議事 事務局: <今回会議の主目的について説明></p> <p>(1) 昨年度検討部会の振り返り 事務局: <昨年度検討部会の振り返りについて説明> 委員: <質問特になし></p> <p>(2) 立地適正化計画に係る他自治体の状況・参考事例 事務局: <立地適正化計画に係る他自治体の状況・参考事例について説明> 委員: 事例では、具体的な施策が記載されてあるが立地適正化計画で言及するの</p>			

はどこまでなのか。

玉野：立地適正化計画は誘導区域等の設定がメインだが、誘導施策も併せて検討する。なお、事例にある施策は必ずしもすべて立地適正化計画から始まった施策ではなく、既に取り組のあった施策を立地適正化計画と関連付けていることが多い。各市によってどこに重点をおくかなどポイントがある。

委員：那珂川市においても中心拠点・行政福祉拠点・南部など色々な状況があるが、キャッチフレーズを設け、それに近づけるように検討していくとよいのではないか。まちづくりの課題の下に那珂川市の強みが載っており、このようなことがキーワードになると思う。

委員：市民アンケートを振り返りキーワードなどを掘り起こすことも必要。

事務局：市民アンケート結果からは、公共交通の要望が多く、公共交通ネットワークの確保は本市の1番の課題ともいえる。また、買回り品施設がないこともアンケートから把握できた課題であり、利便性の高いまちをつくっていくことが必要である。このようなことをまちづくりの方針に反映している。

(3) 課題や強みからみたまちづくりの方針(案)の修正について

(4) まちづくり方針及び都市構造実現に向けたストーリーについて

事務局：<課題や強みからみたまちづくりの方針(案)の修正、まちづくり方針及び都市構造実現に向けたストーリーについて説明>

部会長：先ほど将来像やキャッチコピーという話があったが、各拠点の「将来の姿」がそれに近い。

委員：現状と課題、ストーリー、拠点の将来の姿を全部合わせてストーリーではないか。今「ストーリー」としているところは「課題解決のためのポイント」などと表現してはどうか。

事務局：了解した。

委員：ポイントの中で都市機能・居住の誘導(コンパクトシティの形成)と記載しているが、駅だけでなく那珂川営業所など大きくとらえて中心拠点として捉えているのはコンパクトシティの考えと不整合ではないか。

事務局：まちの核3つを合わせて中心拠点としており、それぞれの核同士で都市機能を補完しあうイメージであり、一つの核ですべてをまかなうものではない。それにより中心拠点の中に住む人にとっては利便性が高くなる。なお、まちの核が3つあるので分散しているように見えるが、それぞれの距離は近く非常にコンパクトである。

委員：3つの核が補完しあうというのもわかるが、それぞれの核で生活スタイルが異なるため、補完ということがメインではないと思う。3つの核は、これ以上コンパクトになりえない最小単位の拠点である。その上で行き来のしやすいネットワークを作る方が優先である。補完しあって一つの拠点に見せるというのは理解しにくい。

- 委員：それぞれの核に具体的にどのような機能を持っていきたいのかという方向性がみえないと分かりにくい。
- 委員：博多南駅も那珂川営業所もそこが目的地ではなく、そこから福岡市に買い物や病院に行くことが目的である。機能を那珂川市で完結させなくてもよいのかなと思う。極端にいうと那珂川市は住みやすい・子育てしやすいまちに特化し、買い物は博多まで10分で行くなど、そういう役割分担を考えてもよいのではないか。
- バス事業者の立場からは、拠点多く感じる。分散してしまったネットワークだと少子高齢化で今後その担い手確保が難しくなるため、区間を極力最小限にして幹線路線に集中していきたいという思いがある中で、拠点を広げられると厳しい。もっと集約してもよいと思う。
- 委員：那珂川市は福岡都市圏の一部であるので、博多南駅は交通の拠点として、買い物は福岡市になど広域的に役割分担を考えることも必要である。
- 委員：中心拠点の広さは、約1.5kmと他自治体と比べて大きすぎることはなく、エリアとして間違っていないと思う。その中で核という表現が強く目立っているので、そこを見直すとよいかもしれない。
- 委員：住民としては、確かに実際の距離は近いかもしれないが精神的距離は遠い。博多南駅から那珂川営業所までは遠く感じ、道路やネットワークが相当整備されないと核間の距離の短さは生かされないように思う。
- 委員：公共交通網形成計画は策定済みか。立地適正化計画との両輪で動かさないといけない。
- 事務局：策定済みである。
- 委員：道路ネットワークについて、特に朝の時間帯は福岡市方面の渋滞が発生しており、雨の日などはバスが50分遅れになっている場合がある。域外に出る道路ネットワークの考えが入ると、計画通りに路線も組めるし、浮いた分で博多南駅への路線を増やすなど余力も出てくるかもしれない。
- 委員：道路網を作りかえることは難しいため、博多南線やバスなど公共交通の利用を伸ばすことがより重要になってくる。
- 委員：筑紫通りなど朝の時間帯だけでも片側3車線にするなどといったやり方をしていかないと、道路を作り替えるのは難しい。また、コミュニティバスで博多南駅に着くバスが20分に1本でも出れば利便性はかなり変わってくる。
- 委員：交通体系に関して、朝の通勤時間のバスと昼間の買い物客のためのバスなど分けて考え、人が多く利用するときは本数を多くするなど、メリハリのある交通体系の検討が行われている。
- 委員：ライフスタイルが書いてあるなど表現が具体化して分かりやすくなったが、PPPなどの専門用語はもう少し分かりやすい言葉になると良い。対応すべきことの中に「若い世代が魅力を感じる都市機能や～」とあるが、若い世代だけでなくシニア世代も含めて検討が必要。あまり世代を絞って考

えるのもよくない。防災性能の強化は、近年大規模な災害も多いためもう少し肉付けできたら良い。

委員：ネットワークの位置づけのところに、渋滞などの問題を掲げているため、渋滞の解消に向けた「機能改善」についてなど書くことも考えてはどうか。

委員：どこまで車でどこから公共交通を用いるかなど移動の動きを可視化して検討すると良いと思う。

委員：パークアンドライド、サイクルアンドライド、キスアンドライドなどの考え方もある。

委員：レクリエーションゾーンについて、ビオトープやダム放流などせっかくあるものを活用する方策を検討すれば那珂川の特色になる。アピールの仕方も重要である。

部会長：議論のまとめとして以下のようなことを検討すること。

- ・まちの核の位置づけや特徴
- ・核をつなぐネットワークの具体性・実現性・機能面
- ・那珂川にある特色のアピールの仕方
- ・防災性強化に関する肉付け

(5) 誘導区域等の設定について

事務局：＜誘導区域等の設定について説明＞

事務局：事務局としては都市機能誘導区域、居住誘導区域ともに素案②の方が適切だと考えている。

委員：都市機能誘導区域のSTEP 1にまちの核か500m、800mと二つ徒歩圏が入っているがその違いは何か。また公共交通利便地域とは何か。公共交通は路線毎に運行本数によって色分けがあると分かりやすい。

玉野：800mは一般的な徒歩圏、500mは高齢者徒歩圏とされており参考に二つの徒歩圏を表示しているが、今回の素案はまちの核から500m徒歩圏を採用し区域案を検討している。また、公共交通利便地域は運行本数が1日30本以上（往復）のバス停から300m圏内を示している。注記等を記載するようにしたい。

委員：都市機能誘導区域案②では、第二種低層住居専用地域が入っているが問題ないのか。

事務局：誘導施設を建設する場合は、誘導区域内においても実際は用途地域の規制に応じて建てられる。二低層の区域を中抜きにするという考え方もあるが、将来的にどうしても住居系の用途地域に誘導施設を立地したいという具体的な動きがあれば用途地域の変更も考えられる。

委員：想定される誘導区域に行政・福祉拠点が含まれるが、市役所の移転などの検討はされないのか。

事務局：現時点では移転の考えはない。今回行政・福祉拠点としての位置づけをしているため、その誘導施設としては市役所が考えられるのではないかと

うことで記載している。

委員：市役所は中心拠点から離れて立地しており、コンパクトシティを目指すなら移転も含めて考えてよいのではないか。

委員：都市機能誘導区域について、市役所があるところが飛び地になっている。中心拠点とつなげた形に区域設定するのは考えられなかったのか。

事務局：今回はあくまで素案であるのでご意見を受けて検討したい。中心拠点と行政・福祉拠点は性格が違うので誘導施設も変わってくると考え、それぞれ分けた案としている。

委員：誘導区域設定は交通の話も絡んでくると思うが、そのような意味でも中心拠点にあったほうが良いと思うのが高齢者福祉施設や高齢者が利用する施設である。市役所周辺を行政・福祉拠点として市役所以外の機能を誘導するのは無理がある。市役所は20年後には移転できなかつたとしても、40年後にはどうなるかわからない。

委員：市役所が現在の位置なのは那珂川市のへそ（真ん中）だからと聞いたことがある。市役所は10年前浸水しており災害の危険性もある。ただ地図上のへそという理由だけでは、現在の位置に立地する根拠にはならないと思う。

委員：市役所の機能で言えば、春日市などは地域コミュニティセンターに窓口機能があり、各種手続きができたりする。来庁者の目的の大半はそういったサービスがあることで解決すると思うので、そのような機能を中心拠点に作ったほうが現実的と思う。

委員：行政・福祉拠点の市役所以外の機能を中心拠点に入れたほうが良いのでは。行政・福祉拠点を市役所が動かさないことを理由に開発するといったことはどうかと思う。

委員：福祉センター等は行政と一緒にいるが、福祉施設関係は交通の便や病院関係と近いほうが良い。今までは行政との手続き上の問題で近くにあったが、今後は利便性を考え病院・交通・商業施設が集まったところにあったほうが良いのではないか。また、災害時に機能が止まったりする危険性があることも利用者は気にされている。

委員：以前下水処理場建設の話があった時に、ミリカローデンの近くに埋設して、その上を市役所やスポーツ施設にすべきという話を聞いたことがあるため、市役所が絶対に今の位置でなければならないということではないのではないか。そういうことも踏まえて、将来的に検討の余地ありなどとして考えてよいのではないか。

部会長：市役所の話は悩ましいが、事務局の方で再検討すること。都市機能誘導区域と居住誘導区域案については、それぞれ素案②で進めてよいか。

一同：異議なし。

委員：居住誘導区域は交通関係のデータも併せて検討できると良いと思う。実際に誘導しても渋滞などで利便性が低かったり、孤立する集落がでてきては

意味がない。

部会長：交通量の状況を踏まえて検討することも考えられるが、交通の状況は変わりやすく、どこまで現状をみるかも考えながら検討していただきたい。

事務局：次回以降は、本日の議論を踏まえ誘導区域案の修正や誘導施策等も併せて検討いただく。

4. その他

部会長：その他何かあるか。

事務局：なし。

5. 閉会

部会長：＜閉会のあいさつ＞